

タチウオ資源生態調査 (タチウオ漁場開発調査)

木村基文*1

1. 目的

タチウオの生物学的知見の収集を行う。

2. 調査方法

材料には、浦添・宜野湾漁協に水揚げされたタチウオを用い、併せてタチウオ漁場調査の漁獲物も利用した。

浦添・宜野湾漁協において月毎に100個体以上の体長測定(肛門全長)を行った。また、月毎に雌雄10個体前後の標本を購入した。標本の測定項目は、肛門前長・全長・体重・雌雄・生殖腺重量・胃内容物組成等であった。

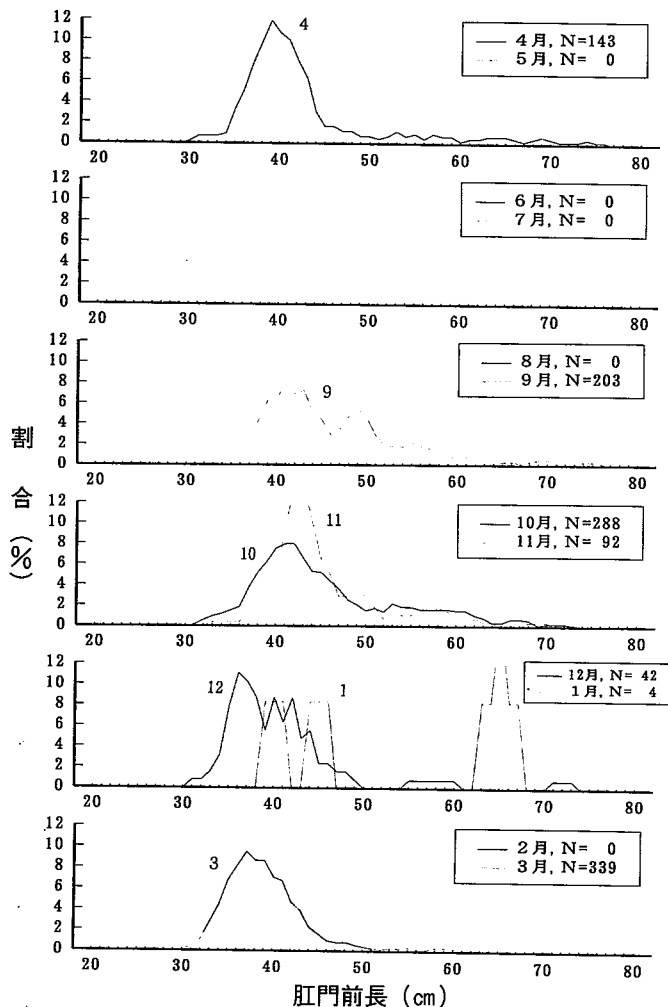


図1 タチウオの体長組成の月変化

3. 結果と考察

(1) 成長

浦添・宜野湾漁協において1996年4月～1997年3月の間に市場調査を行い、タチウオ1,111個体の肛門前長を測定した。

月毎の体長組成にモードの移動は見られない(図1)。

(2) 産卵生態

産卵生態を明らかにするために浦添・宜野湾漁協において1996年9月～1997年3月間に購入した34個体、漁場分布調査の漁獲物21個体、マチ類漁獲調査の混獲物1個体の合計56個体の標本を利用した。標本の漁場は、購入魚が残波岬沖、漁獲物が伊江島～沖縄島北部辺戸岬周辺、混獲物が沖縄島南部であった。

1996年4～9月にかけて水揚げが少なく、タチウオの生殖腺重量指数の月変化を追うことができなかった(図2)。

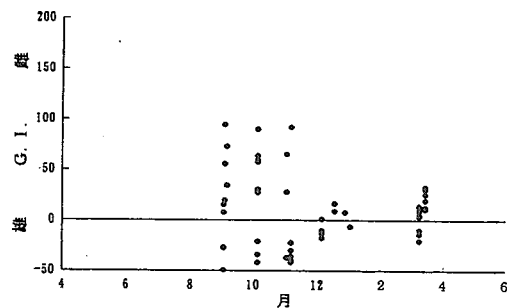


図2 タチウオの生殖腺重量指数の月変化 (1996.4～1997.3)

抱卵量は、肛門前長400mmの雌で約5万粒、500mmで約10万粒、600mmで約20万粒であった(図3)。

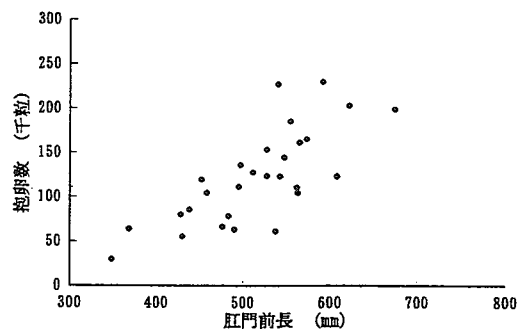


図3 タチウオの体長と抱卵量の関係

*1: 現所属 沖縄県農林水産水産振興課